

**事業所名** 足守荘グループホーム  
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成18年 2月 9日

**評価機関名** ㈱東京リーガルマインド  
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

**評価調査員**  
A:現職 生活指導員  
資格・経歴 介護支援専門員、ホームヘルパー2級、社会福祉主事、訪問介護員  
B:現職 元介護支援専門員  
資格・経歴 介護福祉士、介護支援専門員

**自主評価結果を見る** (事業者の自主評価結果にリンクします)

**評価項目の内容を見る** (評価項目にリンクします)

**事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)**  
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p><b>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</b></p> <p>入居者とのコミュニケーションを重視して、本人の残存能力を引き出し活用出来るようにし、かつ穏やかに安定した生活が送れるように心がけている。</p> <p>より良きケア実現のために職員が目的意識を持ち、入居者と共に生活をエンジョイしながら生き甲斐に繋がる共同生活を実現することを目指している。</p> <p>代表者の設立理念に添って福祉施設は地域の中核たるべきとし、地元との連携を大切にして「青空散歩大会」・「メロン祭り」等地域の催しにも入居者・家族共々参加し、開かれたホームとして地域に貢献して受け入れられるように努力している。</p> <p>入居者本人の特性・能力・生活歴を把握し、本人の自主性を尊重して、自分らしい個性を大切にケアを目指している。</p> <p>入居者・家族・職員との連携が認知症介護の潤いのあるホーム生活の基盤と考え、あらゆる機会を通じて交流・参加を呼びかけ、家族の自主性を大切にしながら内容ある充実した家族会運営を進めている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<p><b>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</b></p> <p>セラピー犬と触れ合うようにして、入居者の精神的安定と認知症緩和に向け、先導的な取り組みを行っている。</p> <p>入居者手作りの作品をホーム内のよく見えるところに掲示してある。また一人ずつの作品ノートが備えられ、作品完成の達成感や喜びを味わい、生活に充実感を持てるようにしている。</p> <p>入居者とのコミュニケーションを重視しており、事態をはっきり伝え、本人の意向を正しく理解して入居者が安心して落ち着いて過ごせるように取り組んでいる。</p> <p>「歌はみんなの共通語」という管理者の言葉にあるように、「音楽セラピー」を取り入れ、入居者のみならず関係者全員がリフレッシュタイムを取り、心安らかに日常生活ができるように取り組んでいる。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせて調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

**講評**

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

岡山市郊外の国道に面した田園地帯にあり、バス停も近い。屋上からの景観も素晴らしいし、便利で落ち着いたロケーションの中にある。

建物の3階部分にグループホームがあり、同じ建物内には特養を始め介護施設があり、介護支援・協力体制・情報交換など集合福祉施設としてのメリットが生かされている。

連携医療機関が近くあり、平素より十分な医療支援が受けられる。往診や通院等により入居者の健康管理・保持が行われ、緊急時も十全な対応が期待できる。

「セラピードッグ」を導入し、入居者の癒しと心理状態の安定に大きな効果を上げている。「音楽療法」にも音大生による積極的なセッションプログラムを取り入れ、入居者の精神や心理状態の向上・安定に大きく効用を及ぼしている。

自主評価には高いレベルの介護内容が読み取れ、実際にも評価すべき点が多い。特に母体法人のクリニックの医師とホームのスタッフが常に連絡を取り、具体例を基に勉強会を開き、認知症介護の資質向上に努力している。

食は生活の一番の基礎として、新鮮な食材と栄養面をしっかりと考え、安価で内容の良い食事が提供されており、毎日の生活に潤いを与えている。

**特に改善の余地があると思われる点(記述)**

特別に改善点として指摘すべきものは無い。設立当初よりグループホームの先駆的モデルとしての役割を担ってこられたが、これからも認知症介護のバイオニアとして、あらゆる可能性にチャレンジし、より良きグループホームの先遣としての努力を期待する。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	認知症への受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<p><b>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</b></p> <p>スタッフ全員が入居者個々の適性・生活歴・能力を詳しく把握し、本人の意志・出来る事を尊重し、作業・リハビリ等の日常生活及び趣味活動が自主的に行われるように配慮している。</p> <p>個人の尊重を前提に、各居室での個々の生活を大切にし、かつ引きこもりにならないように屋上に一人ひとりのプランターを置きそれぞれが好きな花の世話をするなど、共同作業にも外出にも工夫がしてある。</p> <p>個人のデータはファイル化され事務室の鍵のかかる戸棚に保管しており、きちんと情報が管理されている。</p> <p>面会時は個人別にし、誰が面会に来たのか等プライバシーの確保を行っている。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<p><b>サービスの質の向上に向け日々から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</b></p> <p>母体法人の内科クリニックに認知症等に関する専門医があり、常時連絡を取って定期的に勉強会を開いている。変化がある場合には検討会を開き、支援技術・認知症介護サービスの内容向上・専門化に向けて取り組んでいる。</p> <p>入居者・家族からの提案・発言は問題発生の伏線と捉え、苦情・要望を検討してケアサービスの向上に努力し、事故発生の未然防止に繋げている。</p> <p>ヒヤリ・ハットを細かくもろさず把握して、その都度職員に危機管理のセンスを意識的に身に付けてもらえるように検討を行い、事故発生防止に取り組んでいる。</p>		